巻 頭 言

母子健康手帳への期待
－健やかな妊娠、出産、子育てのために－

琉球大学医学部保健学科地域看護学分野
講師　當　山　紀　子

沖縄では「親子健康手帳」の愛称で親しまれている母子健康手帳（以下母子手帳）は、1942年に妊産婦手帳制度として使用されてから、約80年が経過しました。

私は、日本で当たり前に母子手帳を使用していましたが、2001年にインドネシア、2006年にパレスチナにおいて母子手帳の開発･普及活動に従事し、改めてその大切さを学びました。2019年には厚生労働省子ども･子育て支援推進調査研究事業にて、母子保健推進会議が受託した「母子健康手帳の多言語化および効果的な支援方法に関する調査研究」に委員として携わり、10ヶ国語の外国語版母子手帳とパンフレット作成へ協力しました。これらの成果物は厚生労働省のホームページに掲載されていますので、ぜひご活用いただきたいです。

多言語版母子健康手帳・リーフレット（写真１、２）
https://sukoyaka21.mhlw.go.jp/useful-tools/thema3/
（英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ポルトガル語、ネパール語、タガログ語、インドネシア語、スペイン語、タイ語）

現在は、厚生労働省の研究事業「母子健康手帳のグローバルな視点を加味した再評価と切れ目のない母子保健サービスに係る研究」（研究代表者：中村安秀先生）の分担研究において、母子手帳に関する文献レビューを行い、研究協力者の大田えりか先生（聖路加国際大学大学院）、高山智美先生（助産院Sora）と共に、今後の母子健康手帳の活用について、以下の３点を提言しました。

１．母子手帳記録の電子化
２．母子手帳情報の電子化
３．母子手帳の積極的活用の推進

母子手帳は、妊婦中から産後、そして子どもの成長発達、予防接種等の記録が１冊にまとめられ、子どもと家族の手元にあることが非常に有益です。一方、自然災害等による紛失、旅行先での急な受診等において、妊娠、出産、子どもの成長等の記録が電子化され、医療機関・行政・家族間で共有できることのメリットも大きいことから、母子手帳記録の電子化の必要性も高いと考えられました。

また、母子手帳の既読率は高く、妊娠出産や育児において、その記載情報が役に立っています。一方で、更なる内容の充実や、多胎児、低出生体重児、病気や障害を持つ方、多言語への対応等、母子手帳の改善の必要性が指摘されています。紙媒体の母子手帳の中で、内容の増加や、多様なニーズに応える事は困難ですので、人々の生活がデジタル化されている現代、母子手帳からの情報提供についても、ＱＲコードなどを利用した公式ウェブサイトへの誘導等、母子手帳情報の電子化についても必要と考えられました。

そして、母子手帳の積極的活用の推進について、母子手帳は妊娠経過や予防接種記録等の情報はよく利用されていましたが、妊婦自身の記録欄や便色確認記録への記入率が低い等の課題もありました。医療従事者や行政関係者は、配布時や健診時、出産時、受診時等、機会を見つけて積極的に母子手帳への記載や使用方

法について利用者に伝えていくことが必要と考えられました。また、日本の母子手帳の主な利用者は母親であるため、父親などのパートナーを含めた家族の利用を促進するような内容の充実も必要と考えられました。

令和４年度５月からは、厚生労働省において、「母子健康手帳、母子保健情報等に関する検討会」が開催されました。９月20日にまとめられた「母子健康手帳の見直し方針（検討会中間報告書)」において、母子手帳のデジタル化に向けた環境整備を進めていくことや、令和５年度以降、育児等の情報について、電子的に情報提供すること等が記載されました。またその後、母子保健情報のデジタル化について議論され、３月14日にまとめられた検討会報告書において、マイナポータルを通じて閲覧できる母子保健情報を拡充すること等が記載されました。

今後、母子手帳が更に利用しやすくなり、健やかな妊娠、出産、子育てにつながることを期待し、巻頭の言葉とさせて頂きます。

写真１　英語版母子手帳の表紙と目次（カラー）

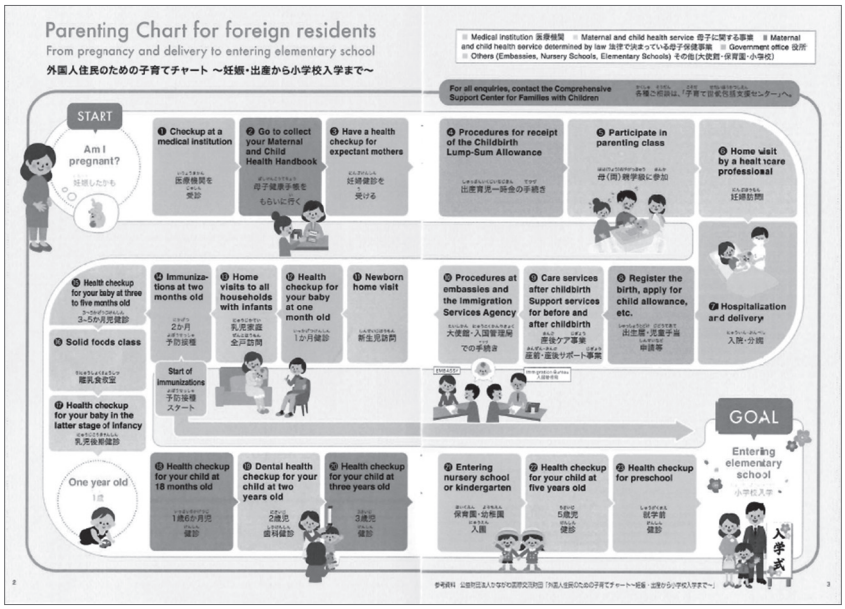

写真２　リーフレット内の子育てチャート（カラー）